

## 研究機関名：東北大学

受付番号： 2014-1-816
研究課題名 肝 S7・S8 領域に対する腹腔鏡下肝部分切除術の有効性の後方視的検討
研究期間 西暦 2015 年 3 月（倫理委員会承認後）～2016 年 3 月
対象材料 <input type="checkbox"/> 病理材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 生検材料（対象臓器名 ） <input type="checkbox"/> 血液材料 <input type="checkbox"/> 遊離細胞 <input checked="" type="checkbox"/> その他（手術時間、術後合併症などの臨床データ ）
上記材料の採取期間 西暦 2010 年 1 月～2015 年 2 月
意義、目的 腹腔鏡下肝部分切除術は近年広く行われるようになってきたが、肝の右上縁および背側にある S7、S8 領域の腹腔鏡下手術は手術手技が困難であることが多く、普及している術式とは言い難い。しかしながら、開腹術での同領域の手術は、たとえ部分切除術であっても大きな皮膚切開を要し、腹腔鏡下手術のメリットが非常に大きい部分であるとも言える。したがって、東北大学肝胆膵外科で施行した同領域の肝部分切除術症例を後方視的に検討し、肝 S7・S8 領域の腹腔鏡下肝部分切除術の有効性につき検証する。
方法 2010 年 1 月～2015 年 2 月に東北大学肝胆膵外科において肝 S7 もしくは S8 領域の肝部分切除術を施行した症例を対象として検討する。カルテおよび電子カルテ、肝胆膵外科データベースからの対象症例の周術期データを抽出し、開腹手術群と鏡視下手術群に分けて比較する。抽出するデータとしては術前データとして、年齢、性別、肝炎ウイルス感染の有無、手術既往の有無、BMI、ASA score、腫瘍径、腫瘍個数、診断名、採血結果などであり、術中データとしては、手術時間、出血量、R0 切除率などとなる。また、術後データとしては、術後合併症、術後在院日数、再入院率などを検討する予定である。その他に鏡視下手術群を、腹腔鏡下手術群および腹腔鏡補助下手術群に分けて、同様の比較を行う。
問い合わせ・苦情等の窓口 東北大学 肝胆膵外科 森川孝則 (TEL : 022-717-7205)